

令和元年度 決算状況について

令和元(2019)年度 損益計算書

科 目	a 決算額 (百万円)	b 予算額 (百万円)	c 対予算比較(a-b)	
			差引増減 (百万円)	d 増減率 (%)
1 営業収益	12,997	12,422	574	4.6
2 うち医業収益	12,224	11,627	597	5.1
3 入院収益	8,039	7,613	426	5.6
4 外来収益	3,812	3,627	185	5.1
5 その他医業収益	373	387	▲14	▲3.6
6 営業費用	13,684	13,104	580	4.4
7 給与費	6,951	6,550	401	6.1
8 うち[医業費用]	6,455	6,054	401	6.6
9 [一般管理費]	496	496	0	0.1
10 材料費	3,517	3,245	272	8.4
11 経費	1,762	1,825	▲63	▲3.5
12 減価償却費	1,418	1,446	▲28	▲2.0
13 研究研修費	36	38	▲2	▲6.4
14 営業損益	▲687	▲682	▲5	0.8
15 営業外収益	222	178	44	24.4
16 営業外費用	607	598	9	1.5
17 経常損益	▲1,073	▲1,102	29	▲2.7
18 臨時利益	105	0	105	5,257,946.2
19 臨時損失	1,115	4	1,111	26,757.4
20 当期純損益	▲2,082	▲1,106	▲976	88.3

1 収支について

令和元年度の収支については、移転後の減価償却費の増加により、11億6百万円の赤字決算を見込んでいたが、最終赤字は20億82百万円の赤字決算となった。赤字の大半を占める臨時損失については、旧病院跡地の減損処理を行ったことによるものであり、10億40百万円計上している。臨時損益を除く経常損益は、10億73百万円の赤字決算となっており、予算額の11億2百万円を29百万円上回った。

営業収益では、対予算で5億74百万円の増収となっており、そのうち、入院収益で4億26百万円、外来収益で1億85百万円の増収となっている。入院収益については、平均在院日数の短縮や逆紹介の推進による入院診療単価の上昇及び新規入院患者数の増加によるものであり、外来収益については、紹介件数の増加や、化学療法件数の増加等によるものである。

営業費用では、5億80百万円の増加となっているが、そのうち、給与費が4億1百万円、材料費が2億72百万円の増加となっており、経費は63百万円の減少となっている。給与費増加の主な理由は、医療職の増加と、手当の増加によるものであり、材料費増加の主な理由は、注射薬品費の増加によるものである。経費減少の主な理由は、委託内容の精査により、委託金額が減少したことによるものである。なお、経常収支比率は92.5%、医業収支比率は89.3%となった。

2 資金

前年度末に借換えをした短期借入金5億70百万円を全て返済し、期末における現金残高は68百万円となった。期首の現金残高は57百万円であったため、実質的な資金は5億81百万円増加した。